

# 古事記を読む会 27号 (2017, 3, 5)

2月5日の提案は、針山氏の「古事記に見る建築用語を考える」であった。

古事記上つ巻 「ただよへる国を修理（つくろ）い固め成せ。」の言葉を勝興寺修理現場所長が示されたことから始まった。御柱、殿、門、垣、室、倉、大室、厠（かはや）等、建築用語について、原文を確かめ、言葉の意味を大変丁寧に調べられた事柄は、納得することが多く、古事記の語る世界を理解する上で興味深く、教えていただくことが多かった。一例であるが、「厠」（かわや）について、①側家、家のソバにつくった個室の家、②川屋、川に上に渡してつくった家、便所、溝流（みぞる）→水洗便所の祖？とさし、一方で、p 311の厠も例にあがる。「是に曾波訶里 窃（ひそか）に己が王の厠に入るを伺ひて矛を以て刺して殺しき」の用例で、ここでは①の意味であると針山氏。ここで、②と考えていた者は、残酷な様子を想像していたことを恥じる。言葉の意味は調べることが大切だと痛感する。厠がらみの話題が多く、度々の都の移動は、人口集中による悪臭など環境問題が原因であったかなどにも触れられた。

古事記の上巻、中巻、下巻を皆で輪読し、全体に亘って、建築用語に注目して読むということが大変意味深いと思った。崇神天皇の三輪山伝説では。「・・・針に付けたる麻（お）が戸の鉤穴より ひき通り出て、唯に遺れる麻は三句のみなり・・・」抜けた鉤穴は何処か？どれほどの隙間があったのか等具体的に想像することがおもしろい。想像を広げるために多くの建築物の図示がおおいに役立った。資料準備のご苦勞に感謝する。

イズミ氏は、カワヤはカワ+ヤですね。カワは川と皮がある。何か共通のものがあるか？  
cover: 川は大地をカバーするもの、皮は体をカバーするものはどうか？と、音韻にからんだ意見を出された。新しく参加された井口氏は、メンタリティのルーツが出雲にあると思い、古事記を読みたいと語られ、前回よりの木谷氏も加わりメンバー増は心強い。

服部氏は、既に数々の視点で提案されているが、今回も提案資料をもって参加された。常世の国は、済州島か？次々回の提案を楽しみとしたい。

昨日は立春だった。いただいたお餅をぜんざいにしたが、お口にあってだろうか？

次回は、提案と総会が予定される。先日、話題に出た出雲の話であれば、藤田富士夫先生にと思い、早速連絡をした。先生からは、「このテーマであれば4～5回できます。」と、嬉しい返事が来た。それで、新年度は1回は講師として、1回はボランティアでとお願いをした。残りは、また次年度にというつもり・・・。

## 本日の提案

3月5日 本日の提案 五十嵐顕房氏

「神話にみられる外来文化の伝来」

4月2日の提案 服部征雄氏

「常世の国から持ち帰ったもの」確認・・・？